

※フィラデルフィア市内にあるホテルの一室でシャワーを浴びようとしたデレック・カヨンゴは、あるものに目を留めた。出張や休暇でホテルを利用する何百万もの人が見過ごしてきたもの―それは石けんホルダーに置かれた、小さな石けんだ。どうしてだろう、とカヨンゴは思った。昨日の晩に使った、角がとれた緑の石けんの代わりに、石けん箱が置かれていたからだ。箱から出てきたのは、真新しい石けん。

(中略)

シャワーをとめたカヨンゴは、服を着て、真新しい石けんを手に、ホテルのフロントへ向かった。

「これは別料金ですか？ 別料金ならお返しします。まだ使っていませんし、新しい石けんは必要ありませんから」

「いえいえ、ご心配なく。無料サービスです」フロント係が答えた。

「そうですか。昨日、チェックインしたあとで封を切った石けんがあったのですが、あれはどうなったのでしょうか。」

「客室の石けんは、毎日、新しいものにおとりかえてしております。もちろん無料で」

(中略)

「古い石けんは、どうするのですか？」カヨンゴはさらに尋ねた。子ども時代を過ごしたアフリカの難民キャンプでは、ちびた石けんを大事に、大事に使っていた。それに比べて昨日の石けんはまだ十分に大きかった。一度、使ったとはいえ、ほぼ新品だった。

「清掃係が処分します」フロント係はそう言って、肩をすくめた。

「処分？」

「ごみ箱に捨てるのです」

(中略)

カヨンゴはアフリカに電話をして、かつて石けんづくりを仕事にしていた父にこの発見を教えた。

「信じられないだろうけど、アメリカでは石けんを一度使っただけで捨てるんだ」

「アメリカ人は、石けんを使い捨てるだけの余裕があるということさ」と父親は言った。

しかしカヨンゴにとって、そんな無駄はこの世の誰にも許されるものではなかった。毎年、二〇〇万人以上が※下痢性疾患で命を落とす現実―しかもそのほとんどは幼児だという現実を、知っていたからだ。下痢性疾患は石けんを手を洗えば予防できる。ところがアフリカでは、その石けんすら買えない人が大勢いる。一方のアメリカでは、一度使った石けんを捨ててしまう。

自分にとって※新天地であるアメリカのゴミを、祖国アフリカのために役立てることはできないだろうか。カヨンゴは行動を起こすことにした。

※アトランタに戻ったカヨンゴは、地元のホテルをまわって、使用ずみの石けんを引きとらせてもらえないかと交渉した。

(中略)

カヨンゴはリサイクル施設を見つけて、ホテルから集めてきた石けんの表面を削り、残りを溶かして殺菌した。グローバル・スープ・プロジェクトの誕生だ。これまでに一〇〇トンの使用済み石けんをリサイクルした。命を救うという使命を託された石けんは、衛生教育とともに、四大陸、三二カ国の人々に届けられた。この業績が認められ、二〇一一年、カヨンゴは※CNNが選ぶ“ヒーロー”に名を連ねた。

(エイミー・E・ハーマン 『観察力を磨く 名画読解』 岡本由香子訳 早川書房)

※注

フィラデルフィア―アメリカ合衆国東部の都市

下痢性疾患―下痢をともなう病気

新天地―これから切り開いていく新しい世界

アトランタ―アメリカ合衆国南部の都市

CNN―アメリカ合衆国の放送局